

## [042]健康科学表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/2560355>

---

出版情報：健康科学. 42, 2020-03-25. 九州大学健康科学編集委員会  
バージョン：  
権利関係：

## 投稿規定

### 1. 投稿資格

- 1) 本紙へ投稿できる者は、原則として、九州大学大学院人間環境学研究院人間科学部門健康・スポーツ科学講座、基幹教育院学修・健康支援開発部およびキャンパスライフ・健康支援センターに所属する教職員（教員・兼任教員・非常勤講師・技術系職員・名誉教授・学術研究者）、上記の教職員と研究上密接な関係にあつて、特に編集委員会で適当と認められた者、ならびに人間環境学府行動システム専攻健康・スポーツ科学（健康行動学）コースの修了生（単位修得退学を含む）、在学生および研究生とする。
- 2) 少なくとも著者の1名は、大学等の教職員でなければならない。
- 3) 本誌への投稿に際し、著者が次の条件を承諾していること。

- (1) 投稿論文の内容のいかなる部分も未出版であること、および他の出版物への掲載の予定のないこと。
- (2) 投稿論文が受理された場合、その著作権を九州大学に自動的に譲渡すること。
- (3) 受理された論文を電子ジャーナル化すること。
- (4) ヒトおよび動物を対象にした論文は、ヘルシンキ宣言（1964年世界医師会総会採択、2000年最終改訂）の方針に沿ったものであること。

### 2. 原稿の種類

原稿は総説、原著論文、研究資料（資料論文）、紹介とし、和文または英文とする。

### 3. 原稿の受領と掲載順序

- 1) 原稿は、以下の執筆要項に基づき作成し、編集委員会の指定した日時までに提出されるものとする。
- 2) 編集委員会は、原稿の内容によっては原稿の種類の変更を著者に申し出ることができる。その場合、編集委員会は、執筆者に理由を付し返却する。
- 3) 掲載順序は、編集委員会で決定する。

### 4. 原稿執筆要項

- 1) 本文

- (1) 原稿は、原則として Microsoft Word で作成する。投稿に当たっては、原稿を E メールへの添付ファイルで提出する。
- (2) 原稿は A4 縦長横書きとし、所定の書式で作成する。
- (3) 原稿を提出する際には、使用 OS 名、ファイル名等を明示する。
- (4) 原稿の一枚目には、表題、著者名、および著者の所属先を和文と英文で記載する。また、連絡先となる著者を明示し、その宛先、電話番号、ファックス番号、および電子メールアドレスを和文と英文で記載する。
- (5) 総説と原著論文に抄録 (Abstract) とキーワード (Keywords) をつける。抄録は本文が和文、英文いずれの場合も英文とし、200~500 words で作成する。キーワードは英文で、3~5 語とする。
- (7) 本文項目の順番は、原則として、緒言（はじめに）、方法、結果、考察、（謝辞、注釈）、引用文献の順とし、小項目に見出し番号を付ける場合は、1. 2. …, 1) 2) …, (1)(2)…, ①②…、の順とする。
- (8) 本文中で引用文献に言及した場合、文章の右肩が著者名の右肩に、末尾の文献表に照合する番号をつける。3名以上の共著の場合、“たち”、“ら”、“et al.”をつける。

(例) 徳永たち<sup>3)</sup>によれば…Kawasaki ら<sup>4)</sup>によれば, Komiya et al.<sup>5)</sup>, Shimizu & Fujishima<sup>6)</sup>

### 2) 図表

- (1) 図表は、原則として英文で作成する。
- (2) 図表の番号は、原則として Fig 1., Table 1., とする。
- (3) 図表は、すべて本文に組み込んだかたちで、原稿を作成する。
- (4) 特殊な印刷・経費を必要とするもの（例えば、カラー写真など）については、著者負担とする。

### 3) 文献表

- (1) 本文中の引用順あるいは著者のアルファベット順に番号（片カッコ）をつけ、著者名は省略しないで全員を記入する。
- (2) 引用は、以下の例にしたがって記載する。巻数、発行年（西暦年）、カッコおよび欧文は半角文字とする。

また、欧文雑誌名は、正式な省略形がある場合は省略形を用いるものとする。

—雑誌から直接引用する場合—

著者名（共著者の場合はコンマ(,)で続け、全員を記載）（西暦発行年）：論文表題。掲載雑誌名、巻数（号数を示す必要がある場合は巻数の後に（号数））：始頁—終頁。

例 1) 徳永幹雄, 橋本公雄, 瀧 豊樹, 磯貝浩久 (1999): 試合中の心理状態の診断法とその有効性. 健康科学, 21: 41-51.

2) Kawasaki T, Itoh K, Uezono K, Ogaki T, Yoshimizu Y, Kobayashi S, Osaka T, Ogata M, Dhungel S, Sharma S, Acharya GP (1993): Investigation of high salt intake in a Nepalese population with low blood pressure. J Hum Hypertensi, 7: 131-140.

—単行本から引用する場合—

引用頁の書き方は1頁のみのときはp.（小文字pの後にピリオド）、複数頁のときはpp.（小文字のppの後にピリオド）、引用箇所が限定できないときは総頁数をPp.（大文字のPと小文字のpの後にピリオド）として記載する。

①普通のもの

著者名（西暦年）：書名。発行所、発行地（欧文の場合）、始頁—終頁。

例 3) 小宮秀一, 佐藤方彦, 安河内朗 (1988): 体組成の科学. 朝倉書店, pp. 87-96.

4) Wilmore JH and Costill DL (1994): Physiology of sport and exercise. Human Kinetics, Champaign, p. 108.

②編集書・監修書

執筆者名（西暦年）：章名。編集者名(編)、書名。発行所、発行地（欧文の場合）、始頁—終頁。

例 5) 藤島和孝 (1993): 現代生活における健康と運動. 九州大学健康科学センター(編), 健康と運動の科学. 大修館書店, pp. 30-31.

6) Williams C (1994): Diet and sports performance. In Harries M, Williams C, Stanish WD, Micheli LJ (eds), Oxford textbook of sports medicine. Oxford University Press, Oxford, pp. 65-82.

③翻訳書

カタカナ著者名（翻訳者名）（西暦年）：書名。発行所、始頁—終頁。（原著者名（発行年）：原書名、発行所、発行所、発行地。）

例 7) トーマス JR, ネルソン JK (宮下充正・片岡暁夫監訳) (1999): 体育・スポーツ科学研究法. 大修館書店, Pp. 142. (Thomas JR, Nelson JK (1996): Reseach methods in physical activity (3rd ed). Human Kinetics, Champaign.)

## 5. その他

1) 初校と第二校の校正は、著者によって行われ、編集委員会の指定した期日以内に終えなければならない。第三校の校正は編集委員会が行う。校正による大幅な原稿の修正は認めない。

2) 別刷りは50部を無料とする。それ以上の別刷りを必要とする場合は、必要部数を投稿時に申し込む。但し、その分の実費は、著者負担とする。

(平成29年12月27日改正)